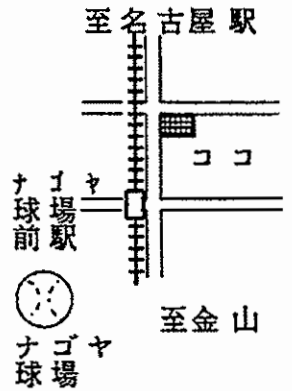


補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

ニコミ 補償



発行日 発行所 株式会社 新日 TEL 052-331-5356 編集者
3ヶ月毎1回 名古屋市中川区山王一丁目8-28 FAX 052-331-4010 秋山学

特集 事業損失

事例集 事例集

事業損失は公共事業の施行により発生する不可避的な不利益、損失又は損害で、

- ① 工事・交通振動
 - ② 工事・交通騒音
 - ③ 水枯渇
 - ④ 水汚濁
 - ⑤ 地盤変動
 - ⑥ 電波障害
 - ⑦ 日照障害
- などがあげられ、これら

各種の事業損失は、昭和四十年代後半から五十年代前半にかけて国民の公害に対する関心の高まりにより大きくクローズアップされた。近年、これら事業損失の問題はやや鎮静化傾向にはあるものの複雑化する都市化と住民の権利意識の高揚等により事業損失の問題解決は

困難かつ長期間を要することとなった。シンニチ補償ミニコミでは、数回に分けてこの事業損失の問題に関し弊社がたずさわった事例を御紹介することで皆様方がかかえている問題の解決に繋がれば幸いと存じます。

ウナギに対する事業損失

ナマスには地震予知の能力があるといわれていますが、それがどうしてなのかは解明されていません。養鰻場の工事振動による事業損失調査にたずさわっているとウナギにもこうした能力が備わっている印象を持たざるを得ません。

そもそもウナギは北海道から九州・沖縄まで広く生息する日本人にはなじみある生物ですが、その一生の大部分を河川、湖沼などの淡水域で生活し、その産卵は台湾東北の二〇〇〜五〇〇米の深い海で行われるといわれています。しかしその生態は実のところほとんど究明されていないのが実情です。

公共事業等で基礎杭や鋼矢板打設工事が施工される場合、養鰻場への影響が懸念されるということから振動等の測定を行っています。振動は四〇〜

年次	kg当	kg当
五八年	一八〇〇	一四〇〇
五九年	一三〇〇	一四〇〇
六〇年	一三〇〇	一四〇〇
六一年	一三〇〇	一四〇〇
六二年	一三〇〇	一四〇〇
六三年	一三〇〇	一四〇〇
六四年	一三〇〇	一四〇〇
六五年	一三〇〇	一四〇〇
六六年	一三〇〇	一四〇〇
六七年	一三〇〇	一四〇〇
六八年	一三〇〇	一四〇〇
六九年	一三〇〇	一四〇〇
七〇年	一三〇〇	一四〇〇
七一年	一三〇〇	一四〇〇
七二年	一三〇〇	一四〇〇
七三年	一三〇〇	一四〇〇
七四年	一三〇〇	一四〇〇
七五年	一三〇〇	一四〇〇
七六年	一三〇〇	一四〇〇
七七年	一三〇〇	一四〇〇
七八年	一三〇〇	一四〇〇
七九年	一三〇〇	一四〇〇
八〇年	一三〇〇	一四〇〇
八一年	一三〇〇	一四〇〇
八二年	一三〇〇	一四〇〇
八三年	一三〇〇	一四〇〇
八四年	一三〇〇	一四〇〇
八五年	一三〇〇	一四〇〇
八六年	一三〇〇	一四〇〇
八七年	一三〇〇	一四〇〇
八八年	一三〇〇	一四〇〇
八九年	一三〇〇	一四〇〇
九〇年	一三〇〇	一四〇〇
九一年	一三〇〇	一四〇〇
九二年	一三〇〇	一四〇〇
九三年	一三〇〇	一四〇〇
九四年	一三〇〇	一四〇〇
九五年	一三〇〇	一四〇〇
九六年	一三〇〇	一四〇〇
九七年	一三〇〇	一四〇〇
九八年	一三〇〇	一四〇〇
九九年	一三〇〇	一四〇〇
二〇〇〇年	一三〇〇	一四〇〇

高収益、労働集約的(重労働)であり相手が生き物であることから、危険性が高い等の特徴を有しており、事業損失が発生した場合の損失は莫大となる可能性がります。事業の施行場所付近に養鰻場が存在する場合あらかじめその対応を検討しておくことが必要であると痛感する次第です。

- 近年成鰻の値動き
- (一) 構造概要調査
 - (二) 建具調査
 - (三) 建物状況の調査
 - (四) 建具と柱窓枠との間隙がある場合の測定
 - (五) 建具の開閉調査
 - (六) 建具の開閉状況がスムーズであるかどうか三段階に分ける。
 - (七) 対角線測定
 - (八) 傾斜度調査
 - (九) レベル調査
 - (十) その他損傷箇所調査

工事に伴い発生する振動又は地盤変動によって家屋等どのような影響を与えたかを把握するため工事の前行う家屋調査については各起業者によって仕様書はあるもののそれぞれ若干その内容が異なる。

しかしながら事前調査が家屋等の損傷を事前事後に対比するための資料作成を目的としているためその工事の場所・方法・規模等が多岐に渡ることをふまえて仕様書をたてただ単に画一的に調査を行うのではなく工事の性格に合わせた調査を行う必要があり、ここにその一例を紹介する。

支障物件等の立入調査にあたって私たちが調査者が最も神経を使うのは、被補償者の人柄です。そもそも被補償者にとって私どもは招かざる客であり住みなれた土地、永い間に培われた近所付き合いはなれることに対する不安、補償金額を含めた将来の引越先への不安等誰かんで移転を歓迎する人はなく心中穏やかであるはずがありません。

こうして人々に公共事業の名を借りて接する仕事ですから立入調査は用地交渉の第一歩といった事の重大さは自覚しつつも時として被補償者の心象を害し、とんだトラブルにつながることもありま

現場での一口

二、押入れを開ける事
押入れはその家の裏側を覗く事につながります。押入れごとくに了解を求めらるるの神経を使う必要がります。

三、便所・浴室へはノックを
特に便所に入る時は注意が必要です。便所のドアを開けたらその家の娘さんが入っていて気まずい思いをしたことがあります。

毎日の仕事として立入調査に従事していると時として被補償者がどんな気持ちで私たちに調査させているかを忘れがちになります。たえず初心にかえり相手の気持ちと

自慢出来る話ではありませんがこれまで私達が行ってきたなかでトラブル発生へのベストソリューションを御紹介します。

一、写真撮影
自分の住まいの写真撮影は嫌がられます。特に女性はその傾向が強いのであらかじめ十分理解を求めておく必要があります。フィルムを抜き取られたこともありますが、第一にタイムリー

補償CAD開発！
弊社ではソフトウェアパソコンによる中部用対連仕様一般建物の図面作成から積算に至るまでの補償CADシステムを共同開発しました。テスト段階ではありますが今後広く市場に開放していく予定です。

機種/沖電機 IP1800
NEC S150
/88
武藤工業
IP1200